

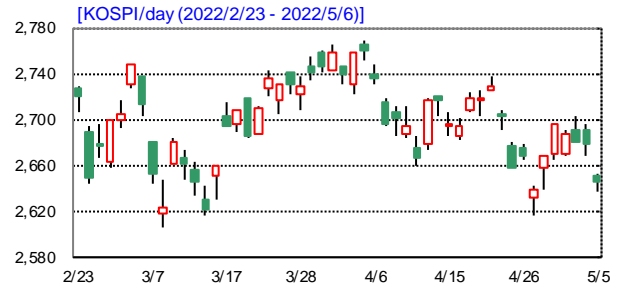


## 【韓国】 総合指数は週間で1.9%安と続落、今週は方向感に乏しい相場か

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.9%安と続落。こどもの日で休場だった5日を除き、連日の下落だった。週明け2日は前週末に急落した米株式相場に追随し、3営業日ぶりに反落。韓国政府が1日発表した4月の輸出額が前年同月比12.6%増と、想定より弱い内容だったことも嫌気された。3日と4日はFOMCの結果発表を前に、内容を見極めたいとして手控えムードが広がった。休場明け6日は4営業日続落し、終値は4月27日以来の安値を付けた。米国でインフレ高進による景気減速が改めて意識され、米株式相場が5日に急落したことで、韓国市場でも運用リスクを回避する売りが膨らんだ。今週は方向感に乏しい相場か。自律的反発を見込む買いが入る半面、米長期金利の上昇を背景に資金流出への警戒感が相場の重荷となりそうだ。

▼指数チャート

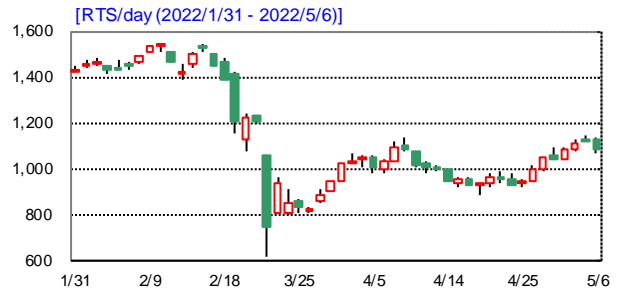


## 【ロシア】 RTS 指数は週間で0.6%高と続伸、今週は9日の戦勝記念日に注目

### 先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は0.6%高と続伸。2-3日が連休で3営業日の取引だった。ルーブル高基調が続く中、連休明けに続伸。原油先物価格の反発と高止まりも指数を押し上げた。連休明けの4日は前営業日比3.0%高と大幅に続伸。前週末の4月29日に続き、上昇率が3%を超えた。5日は0.5%高。FOMCで0.5%の利上げと量的引き締めが6月開始が決まり、ダウ平均は急落したが、「石油輸出機構（OPEC）プラス」が追加増産に応じず、現行の小幅増産の維持を決めて好感された。6日は2.8%安と4営業日ぶりに反落し、週の上げ幅を縮めた。今週は9日が戦勝記念日の祝日で9-10日が休場となる。ウクライナ情勢を巡り9日に何らかの動きがあるか注目されそうだ。経済指標では4月のCPIが13日に発表される予定。

▼指数チャート

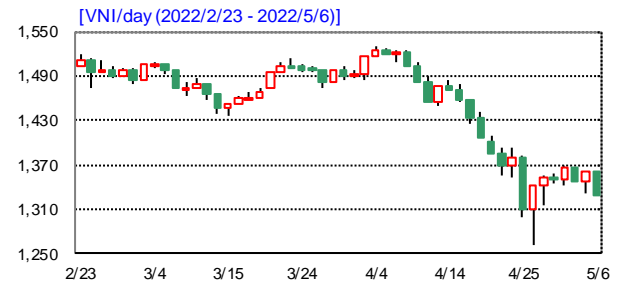


## 【ベトナム】 ベトナム指数は週間で2.7%安と5週続落、今週は一進一退か

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で2.7%安と5週続落。2-3日が連休で3営業日の取引だった。軟調な地合いが続く中、米国株のさえない値動きを背景に下落基調に歯止めがかからなかった。連休明けの4日は前営業日比1.3%安と反落。連休中の海外市場の動向を受け、出遅れ感から売り優勢の展開となった。5日は前日比0.9%高と反発したが、6日は前日のダウ平均急落の余波がアジア市場にも波及。FOMCで決まった0.5%の利上げと量的引き締めが投資家心理を冷やし、前日比2.3%安で週の取引を終えている。個別では不動産のビンホームズが週間で5.7%高、保険のパオベト・ホールディングスが2.7%高と堅調だった半面、乳製品のビナムルクが5.4%安、ゴム製品のベトナム・ラバーが7.1%安と売られた。今週は一進一退の展開か。

▼指数チャート



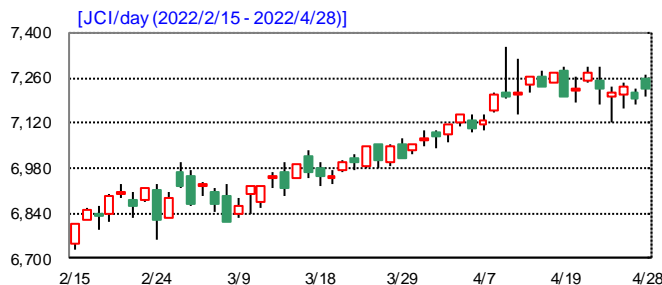


## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】**ジャカルタ総合指数は断食明け大祭の連休で休場、今週は 1-3 月期の GDP が焦点

ジャカルタ総合指数は断食明け大祭の連休で 1 週間を通じて休場。取引を再開する今週は、9 日の 1-3 月期の GDP と 4 月の CPI に続き、12 日には 3 月の小売売上高が発表される予定となっている。先月 28 日から国内の供給不足を解消する目的で禁輸が続くパーム油の輸出再開時期に関する動きにも注目。外部要因では、前週末の NY ダウが 4 月の米雇用統計で高い賃金の伸びが示され、インフレ加速への警戒感が高まった影響で続落したことが逆風となる中、11 日に発表される米中の 4 月の CPI 上昇率が予想を下回り、インフレ懸念が後退すれば好材料。為替相場が進む米ドル高ルピア安の動向も意識されそうだ。

### ▼指数チャート

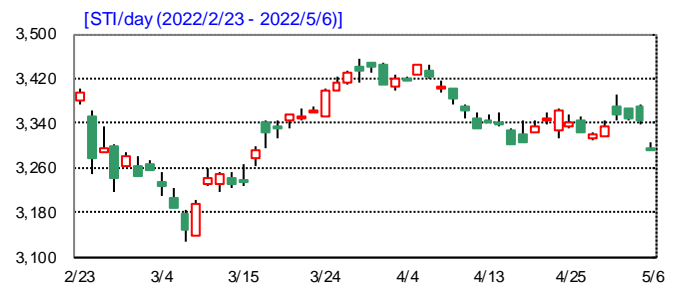


## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】**ストレーツタイムズ指数は 1.9%安、今週は 3300 ポイント台回復に期待

ストレーツタイムズ指数は 3 日間の取引で 1.9%安と続落。週末の終値は約 7 週間ぶりに 3300 ポイントを割り込んだ。連休明けの 4 日は、米 FOMC 後の声明発表を目前に控えた様子見で 3 営業日ぶりに反落。5 日は FOMC で決定された利上げ幅が市場の予想通りだったほか、前日の取引終了後に発表されたシンガポールの 4 月の製造業 PMI が市場予想から上振れしたものの、指数は小幅に続落した。6 日は中国がゼロコロナ政策を継続する方針を示したことを受けて景気減速への警戒感が高まり、前日比 1.5%安と 3 日続落して引けている。今週は国内の経済イベントが少なく外部要因に左右される展開か。

### ▼指数チャート

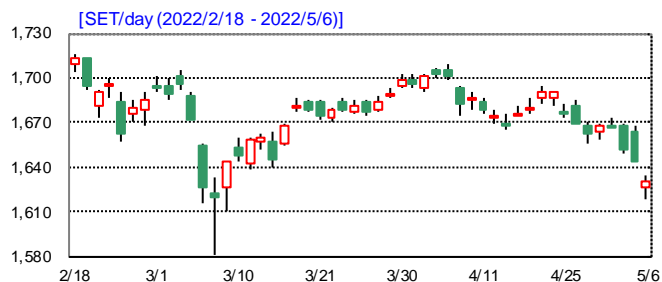


## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】**SET 指数は 2.3%安、世界的な金融引き締めを警戒

SET 指数は 3 日間の取引で 2.3%安と続落。週末まで 4 営業日続落と軟調だった。連休明けの 3 日は、1 日から外国人旅行者に対する入国規制が緩和されたが効果は限定的で、指数は続落。祝日を挟んだ 5 日は、3-4 日に開催された米 FOMC 後の会見で、パウエル FRB 議長が今後の 0.75%の利上げ実施について慎重な見方を示したものの、金融株を中心に売り優勢の展開となった。同日に発表された 4 月の CPI 上昇率は、前年同月比 4.7%と 3 カ月ぶりに 5%を下回っている。週末の 6 日は欧州中央銀行 (ECB) の利上げ観測が高まった影響などで売られた。今週も世界的な金融引き締めの動向が焦点になりそうだ。

### ▼指数チャート

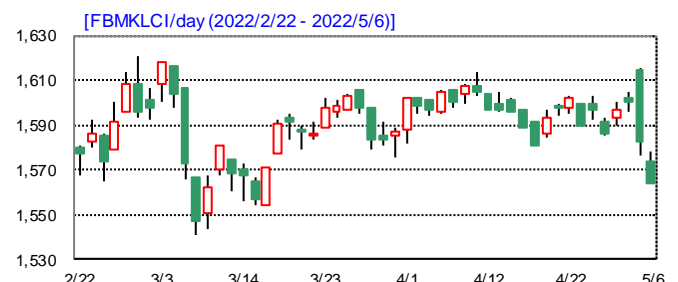


## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】**クアラルンプール総合指数は 2.3%安、今週は 13 日に 1-3 月期の GDP 発表

クアラルンプール総合指数は 2 日間の取引で 2.3%安と続落。軟調な値動きが続き、週末の終値は約 7 週間ぶりの安値を更新した。連休明けの 5 日は、寄り付きから上値を広げたものの、その後の利益確定売りが痛手となり、終値で前営業日比 1.1%安と 3 営業日ぶりに反落。6 日は前日に NY ダウが急落したほか、イングランド銀行 (英中央銀行) が景気後退の見通しを示した影響で売られ、前日比 1.2%安と続落した。今週は 10 日に 3 月の鉱工業生産、13 日に 1-3 月期の GDP が発表されるほか、11 日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。内容次第で 1600 ポイント台を回復できるかが焦点になる。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。